

だいせんの偉人先人たち

かとう かげ すみ
加藤 景 澄

【 分類 】 医療

【 生没年 】 1821年 ~ 1881年

(文政4年) (明治14年)

よどがわむら こたね
淀川村の小種出身。13歳のてんぼう ききん
天保の飢饉では、貧しい村人に米を分け与え命を救った。17歳のきかいこにん みならい
時境抛人見習
やく そうだんやく
役(相談役の見習)という役目に就き、その後、ひらたあつたね
平田篤胤に学び地元でいしゃ
医者として病人を見てあげながら、教
育にも力を尽くした。32歳のきもいり
肝煎(今のそんちょう
村長)及び境抛人ほんやく
本役(相談役)という重い役目に就いたほか、45歳
にはごろんし
御論旨とはいゆう
神事拝揖之式(天皇のお言葉と神をまつるきまり)をちやうてい
朝廷からいただき、52歳にはしんめい
小種村神明
社とえはらだむら はくさんじんじゃ
江原田村白山神社のしゃしょう
社掌を仰せつかった。

出典 『先人の歩み上』1979、大曲市仙北郡校長会／編